

じゅしゅう

秋季彼岸会 厳修

九月二十二日、秋の彼岸会をお勤めさせていただきました。今年は閏年の関係で二十二日が中日となり、また雨の中の法要となりましたが、ご参詣の方々は頭が下がる思いでありました。

さて、この度の法要にお招きした講師は石崎博叙先生です。余談ですが、私が小学生の頃よりお育てをいただいた先輩で、僧侶としてのイロハを教えていただいた方でありました。

ご讚題には親鸞聖人のご和讃「本願力にあひぬればむなくすくむるひとごなき、功徳の宝海みちみちて、煩惱の濁水へだてなし」をい

ただきました。阿弥陀さまの願いとはたらきに出遇ったならば、もうむなく迷いの世界にとどまることはありません、との言葉です。

私たちは生まれ限り、必ずいのち終わっていきまします。誰もがそのことは知っています。けれど、普段の生活の中で亡くなっていくいのちを生きているという実感はあまりありません。生きているのが当たり前前なのです。

私のいのちはどこへ行くのでしょうか。亡くなったら終わりでしょうか、無くなってしまうのでしょうか。私のいのちの行き先を持た

第66号
(通算406号)

発行元
浄土真宗本願寺派
吉富山 浄覚寺
大阪市平野区
長吉長原3-1-10
06-6790-8350

ないまま生きるということ、は、行き先の書いていない電車やバスに乗っているのと同じことです。おそらく不安で仕方がないはずですが、私たちは何のために生きていくのか、どこへ向かって生きているのか。それをわかっていない迷っている姿を「むなし」といわれるのです。

「むなし」は漢字で書くくと「空しい」となります。反対の言葉は「満たされている」ということでしょうか。迷っていることにすら気づけていない私は、実は空しく生きていたということなのでしよう。それでは、逆に心が満たされているとはどういう状況なのでしょうか。

阿弥陀さまは、私のいのちの行き先として極楽浄土

浄覚寺ヨガ教室

・10月16日(水)
10時~11時半
・参加費500円

浄覚寺雅楽教室

・10月22日(火)
19時~20時半
・参加費1000円

(彼岸)をご準備くださいました。迷っている私のことを心配し、私が気付くよりも先に救いの手立てを整えて、必ずお浄土に迎え取り、仏さまのいのちに生まれさせますのだとはたらくてくださいます。いのちの行き先、何のために生きているのかという答えを持てるということが、満たされた心であり、私が安心して生きていく支えになるということなのです。



「言南無者」といふは、

すなはち帰命と申す

みことばなり。

帰命は、すなはち

釈迦・弥陀の二尊の

勅命にしたがひて、

召しにかなふと

申すことばなり。

親鸞聖人『尊号真像銘文』



御文章に聞く(第59回)

参考文献：『御文章 ひらがな版を読む』 天岸淨圓著 本願寺出版社

一切の聖教章(五帖第九通) 当流の安心の一義というは、ただ南無阿弥陀仏の六字のころなり、たとえは南無と帰命すれば、やがて阿弥陀仏のたすけたまえるころなるがゆえに、南無の二字は・帰命のころなり、帰命というは・衆生のころもろの雑行をすてて、阿弥陀仏後生たすけたまえと・一向にたのみたてまつるころなるべし、このゆえに・衆生をもらさず弥陀如来の・よくしらしめして・たすけましますころなり、

今回も御文章(蓮如上人からのお手紙)を味わっていきたいと思います。先月から新しい御文章「一切の聖教章」を読ませていただいております。南無阿弥陀仏の「南無」の二字は、

仏教語辞典



おしろい地藏

島根県の玉造温泉にある清蔵寺に安置されている。昔、お地蔵さまに女性が団子の粉をこねたものを塗ったところ、たいそう美しくなり良縁に恵まれた。また美しう婆さまがお参りしたところ、腰痛が治ったという話など。諸説あり、現代も信仰されるお地藏さま。

『気になる仏教語辞典』 著・麻田弘潤 誠文堂新光社
 仏教にまつわる用語をイラストとわかりやすい言葉で読み解かれています。ぜひお買い求めください。

インドの昔の言葉「ナモス」という単語の発音を漢字で音訳表記されたものです。中国語では「帰命」とも翻訳されました。その意味は「帰」と「命」の文字をそれぞれ熟字して、「帰順教命」をあらわすとされています。「帰」は「順」の意味と理解し「順う」ことをあらわし、「命」は「教命」の意だとして「勅命」「命令」「仰せ」と理解します。つまり、「帰命」とは「仰せに順う」という「信順」を意味するのだとされているのです。

親鸞聖人も「帰命」のころを、阿弥陀さまから見れば、「私の教えに従いなさい」という勅命の意味となり、教えを受ける私たち衆生の側からすれば、「仰せに順います」という信順の心をあらわす、他力の信心の特色をあらわすにもつともふさわしい言葉だと選び取られたのです。

編集後記

今月も「じゅこう」をお届けいたします。お彼岸の法要でお聴聞して取りましたら、ご法話の中で英語が出てきて驚きました。普段私たちが勤める法事や月忌参りは、"for"と"with"の二種類があるとのこと。"for"は誰々のためにという意味で、故人のために勤めるといことだそう。もちろんご命日を縁として勤めていますから、まったく故人を抜きにはできません。浄土真宗は追善供養の宗旨ではありません。阿弥陀さまの本願力によって故人はお浄土で仏さまです。仏さまに成られたら、残された私たちをまた仏縁に遇うように導いてください。あなたと一緒に生きていきますよとの"with"という味わい方が、浄土真宗のお勤めなのだと思わせていただきました。(釋法道)

行事案内

日時・十月十九日(土) 十四時・十九時
 行事・永代経法要
 法話・若林眞人先生(大阪)
 場所・長原浄覚寺 となたもぜひお参りください
 (なお、当日のお参りはお休みをさせていただきます)

ご法要にぜひご参拝いただきますよう、ご案内申し上げます。法要参拝の肝要は自分自身が仏法を聞かせていただくことです。聞き続けていく間に仏法の大切さ、尊さ感じ取っていきます。自分にとって良いものと感じるからこそ次の世代に勧めていくことができるのです。運営のためにお手伝いをお願いすることもありますが、まずはご自身のためにご参拝、お聴聞いただきますよう、伏してお願ひ申し上げます。